

科目名	人間と文学 Introduction to Literature						
科目担当者	清松 大 KIYOMATSU Hiroshi						
単位数	2	配当年次	1年	授業形態	講義	開講学期	後期
履修学部・学科 [区分]	法学部・法律学科 [総合教育科目 人間形成] 経営学部・経営学科 [総合教育科目 人間形成]				ディプロマポリシーとの関連	(1)(4)	
授業の概要	<p>文学作品や文化現象には、その時々の社会的背景や歴史的な脈絡のなかで人々が何を感じ、どのようなことを考えてきたかが反映されている。本講義では、文学作品の読解や、それを取り巻く文化的環境や政治的状況との関係性などを考察することを通して、そのような「思考の形跡」にアクセスしていく。対象とするテーマや作品は多岐にわたるが、明治中期（日露戦後）から現代までに時代を絞って行く。</p> <p>なお、「文学」を扱う授業ではあるが、活字のものに限らず、映像作品や漫画など、様々な文化領域に興味を持つ学生の受講を歓迎する。また、社会学やメディア研究などの隣接諸領域に関心のある学生にとっても有益な部分があると思われる。</p>						
授業の到達目標	<p>① 文学作品の読解を通して、多様な文章を読解する力を身につけること。 ② 文学作品の読解を通して、より広い視野をもって社会を見渡せるようになること。 ③ 文学作品から見えてくる歴史的あるいは現代的な諸問題について、自ら思考し、自らの言葉で意見を提示できるようになること。</p>						
授業計画・内容	1	イントロダクションーなぜ文学を読むのか					
	2	文学（批評）理論概説①ー構造主義とテキスト論					
	3	文学（批評）理論概説②ーポスト構造主義からイデオロギー批評へ					
	4	日露戦後文学の世界①ー夏目漱石『坊っちゃん』を読みなおす（その1）					
	5	日露戦後文学の世界②ー夏目漱石『坊っちゃん』を読みなおす（その2）					
	6	日露戦後文学の世界③ー島崎藤村『破戒』					
	7	大正デモクラシーと文学①ープロレタリア文学の登場					
	8	大正デモクラシーと文学②ー葉山嘉樹『セメント樽の中の手紙』					
	9	検閲と文学①ープロレタリア文学はなぜ衰退したか					
	10	検閲と文学②ー太宰治『待つ』					
	11	検閲と文学③ー太宰治『トカトントン』					
	12	「政治の季節」のなかの文学ー「W村上」と学生運動					
	13	公害と文学ー石牟礼道子『苦海浄土』					
	14	「1995年」の文学ー村上春樹とオウム・阪神大震災					
	15	宮崎の林業と文学ー平野啓一郎『ある男』					
授業外学修 (事前学修)	・授業で扱う対象作品を事前に読んでおく（毎週3時間程度）						
授業外学修 (事後学修)	・中間レポートの作成（15時間程度）						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法				評価比率	到達目標との対応	
	・期末試験（レポートに変更の可能性あり）				60%	②・③	
	・中間レポート				30%	①・②	
	・授業内課題				10%	①・③	
成績評価基準	<p>秀：（評点90点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：（評点80点～89点）到達目標を高い水準で達成している場合 良：（評点70点～79点）到達目標を一定の水準で達成している場合 可：（評点60点～69点）到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：（評点60点未満）到達目標に達していない場合</p>						
教科書	特に指定しない。適宜プリント等を配布する。						
参考文献	<p>・松本和也『テキスト分析入門 小説を分析的に読むための実践ガイド』（ひつじ書房、2016年） ・小林真大『文学のトリセツ 「桃太郎」で文学がわかる！』（五月書房新社、2020年）</p>						
その他	「日本語理解C」との並行受講を推奨する。						